

## 1 趣 旨

小学校高学年期の子供が長期間の共同生活の中で全力を出し切って取り組む活動をとおして、激動の世の中を生き抜く力の基礎を育むことを目指す。

## 2 ねらい

困難な状況に挑戦し、他とかかわり合いながら課題を克服する経験を積むことをとおして、生き抜く力の基礎（3つの力「かかわる力・感じる力・見つめる力」）を育てる。

## 3 日 程

- (1) 期 日 平成27年8月2日(日)～8月12日(水)【10泊11日】  
 (2) 参加者 18名(石川県10名,岐阜県6名,新潟県1名,茨城県1名)  
 (3) 研修内容及び講師



7月19日(日)	出 会 い	○事業説明 ○実習「アイスブレイク」 ○実習「サイクリング」 ○事前アンケート	
8月2日(日)		○開講式 ○実習「アイスブレイク」 ○実習「登山の準備」	
8月3日(月)	チ ー ム 作 り	○実習「縦沢岳登山」(新穂高バスターミナル～わさび平小屋)	講 師 島 田 靖 氏
8月4日(火)		○実習「縦沢岳登山」(わさび平小屋～双六小屋)	
8月5日(水)		○実習「縦沢岳登山」 (双六小屋～縦沢岳山頂～鏡平～新穂高バスターミナル)	
8月6日(木)		バス移動 (国立乗鞍青少年交流の家～富山県砺波青少年自然の家) ○実習「ジップライン」,「野外科理」 (富山県砺波青少年自然の家)	
8月7日(金)	チャ レ ン ジ	○実習「サイクリング」 (富山県砺波青少年自然の家～富山県氷見市立灘浦中学校)	
8月8日(土)		○実習「サイクリング」 (富山県氷見市立灘浦中学校～石川県穴水町立穴水中学校)	
8月9日(日)		○実習「サイクリング」 (石川県穴水町立穴水中学校～石川県立能登少年自然の家)	
8月10日(月)		○実習「大型カヌー」 (石川県立能登少年自然の家)	講 師 石 川 県 立 能 登 少 年 自 然 の 家 職 員
		○実習「レクリエーション・ふりかえり」 (石川県立能登少年自然の家)	
8月11日(火)	旅 立 ち	○実習「サイクリング・ふりかえり」 (石川県立能登少年自然の家～禄剛崎)	
8月12日(水)		バス移動 (禄剛崎～国立能登青少年交流の家)	
		○実習「ふりかえり」 (国立能登青少年交流の家)	
		○閉講式・宣言(なりたい自分)	

### (4) プログラムデザイン

ねらい達成に向け、長期間のキャンプを4つのステージに分けて設定した。単に活動を羅列するのではなく、ステージのねらい(次頁参照)に合わせて実施することで、効果的に子供の成長を促す。

#### 【4つのステージのねらい】

出会い	これからの活動に対し、新しく出会った仲間と共に取り組んでいこうとする意欲をもつ
チーム作り	同じ班の仲間と励まし合い、目的を共有しながら登山することにより、仲間意識を高める
チャレンジ	困難なサイクリングに対し、仲間と声をかけ合いながらやり抜くことにより、仲間の大切さを実感する
旅立ち	全日程をやり遂げた達成感を感じるとともに、自分の成長を見つめ、これからの自分の生き方について考える

#### 4 成果と課題

(1) 3つの力「かかわる力・感じる力・見つめる力」の変容を見取る評価

##### ①量的評価

ア ふりかえりカード

9つの評価規準(表1参照)を設け、それぞれ5段階で自己評価した。キャンプ前とキャンプ中の毎日(最終日を除く)の合計11回行った。また、子供自身がふりかえり易くするため、自己評価のポイントをチャート図に表したり、全てのカードを1冊のファイルに納めたりした。



3つの力	評価規準
かかわる力	①自分から進んで友達や指導者に話すことができたか。
	②相手の立場に立って話したり、行動したりすることができたか。
	③友達と励まし合って活動に取り組むことができたか。
感じる力	④友達のよいところを見つけたり、感じたりすることができたか。
	⑤自然の素晴らしさや厳しさを感じる事ができたか。
	⑥成長できた自分を感じる事ができたか。
見つめる力	⑦自分自身のよいところを見つけることができたか。
	⑧あきらめないで最後までがんばりぬくことができたか。
	⑨指示されるだけでなく、自分で考えて行動することができたか。

表1「9つの観点、その評価規準」

イ 保護者・担任による評価

キャンプ前とキャンプ終了1か月後の2回、保護者と担任による評価を行った。自己評価と同じ評価規準で評価することにより、家庭生活や学校生活において3つの力がどのように生かされているか見取った。また、終了1か月後の調査では、キャンプ前と比較して成長していると感じられる項目を挙げてもらった。



##### ②質的評価

ア ミニ作文・ふりかえり作文

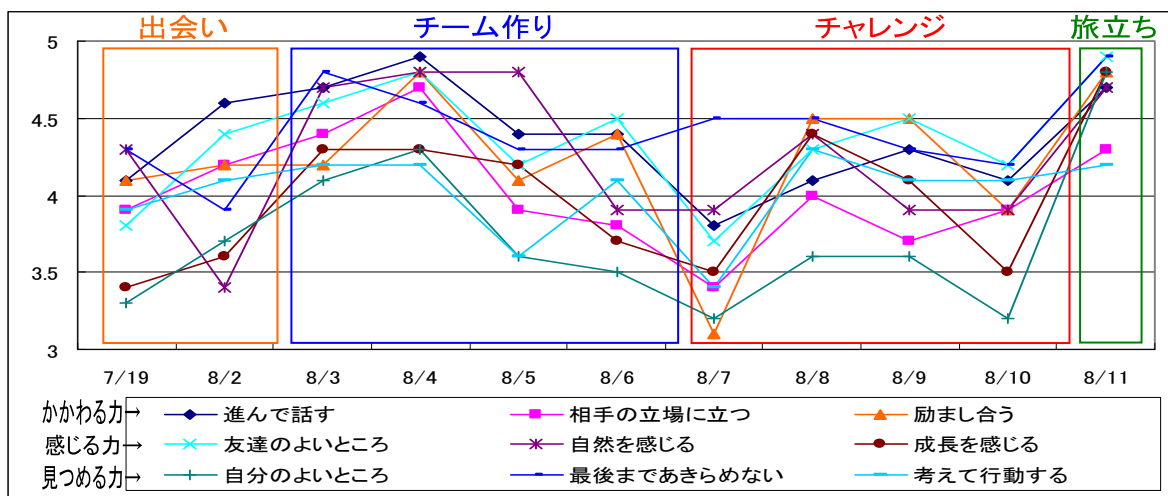
毎日のふりかえりカードに、ミニ作文の欄を設け、その日の気付きをその日のうちに記入できるようにした。キャンプ最終日は、自分の成長や今後の生き方等について文章でまとめた。

イ 参与観察

各班にリーダー2名の他、記録担当を1名ずつ配置し、子供の変容について記録した。子供と一緒に活動するスタッフならではの視点で記述するようにした。なお、記録にあたっては、プログラムデザインに位置付けているねらいと、9つの評価規準を意識した。

(2) 量的評価の結果と考察

①自己評価 (5段階評価の平均: 有効回答数 18)

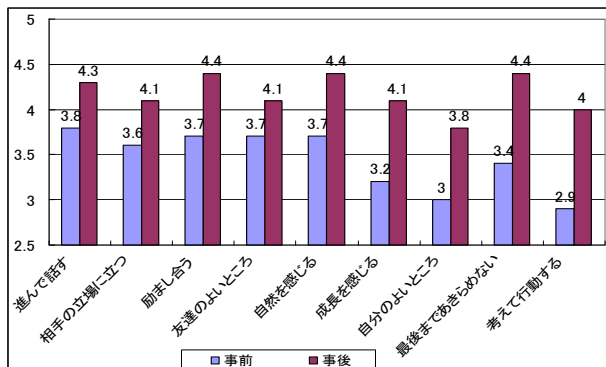


グラフ1「観点別 得点の推移」

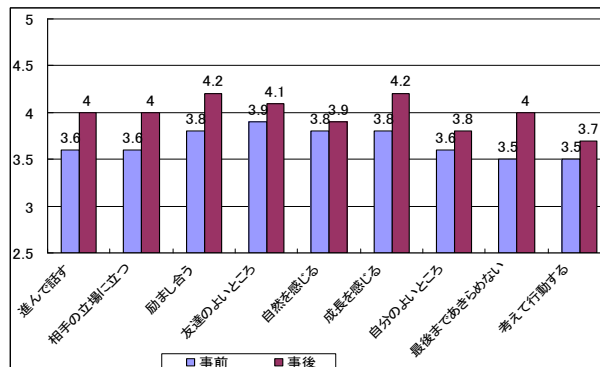
- 3つの力によって推移に大きな差は認められない。「出会い」から「チーム作り」にかけて得点が大きく上がり、「チャレンジ」初日で下がった得点が、最後に全て上昇している。
- 双六小屋に着いた日(8/4)、穴水中学校と能登少年自然の家に到着した日(8/8・8/9)、禄剛崎にゴールした日(8/11)にそれぞれ高得点を示している。このことから、生き抜く力の3要素の高まりは、全力を出し切り達成感を味わうことと関連がある。
- サイクリング初日(8/7)、9観点のうち「最後まであきらめない」だけが上昇した。この項目は、得点が高い位置で安定し、平均で 4.5 ポイントであった。本事業は、小学校高学年の子供にとって、「全力を出し切る」行程であったと言える。
- 全日程を通じて、「自分自身のよいところを見つける」項目が比較的低い得点(平均で 3.8 ポイント)であった。全力を出し切る行程であり、各ステージの盛り上がりで達成感を感じているにもかかわらず、自己肯定感につなげることができなかった。
- サイクリング最終日(8/11)、全ての項目で上昇がみられ、平均 4.7 ポイントとなった。その上昇率は高く、前日比で平均 0.8 ポイントの上昇であった。しかし、「考えて行動する」項目が一番低い 4.2 ポイントとなるだけでなく、前日比の上昇もわずか 0.1 ポイントにとどまった。



②保護者(有効回答数 18)・担任(有効回答数 17)による事前・事後評価



グラフ2「保護者の評価」



グラフ3「担任の評価」

- ・ 事業終了1か月後の全ての得点が事前に対して上回っている。本事業をとおして培った力が、家庭や学校においても活かされていると言える。
- ・ 事業後の子供の様子から、保護者は特に「考えて行動する」ようになった、担任は特に「最後まであきらめない」ようになったと感じている。

### (3) ふりかえり作文・参与観察メモより抜粋

- 物事を悪いふうに考えてしまうことが多かったけど、仲間の元気で明るい考え方を聞いているうちに、私も明るい考え方をするようになりました。(中略)投げ出しそうになっても、仲間の励ましのおかげで「よし！あきらめないぞ！」という自分の本気と根性を思いっきり出せた気がします。弱かった自分の心も強くなった気がします。(6年女子)
- これからの生活で、全力キャンプでした「協力」、「自分から」、「喜び」、「声かけ」、「信じ合う」を忘れずに生かして行きたいです。(5年男子)
- 8/10(月)。ここまで来て、子供たちの表情は大きく変化したと思う。様々な表情が出るようになったし、言葉や意見、思いなど、大なり小なりの変化があったのではないだろうか。(班付きリーダー)
- 8/10(月)。能登少年自然の家でレクリエーションをした。子供たちは、支え合いながら円の中にある玉を取るレクに挑戦した。不安そうな男の子に、「信じて！みんなを。大丈夫だから！」と女の子が勇気付けていた。”信じる”なんて出会った頃には絶対に出てくる言葉ではない。(中略)私たちボラの支えも必要なくなり、自分で考えて解決していくようになり、今度は周りを助ける側になり、それが班員を「信じる」ということにつながったと思う。そのような、子供の成長を実感でき、本当に嬉しくてたまらない。反面、少しさみしく思う。(班付きリーダー)

### (4) 成果と課題

#### 《成果》

- 子供に適度な負荷をかけ、明確な目標を示しながら、達成感を味わわせることにより、生き抜く力の基礎(3つの力)の高まりが認められた。
- 事業1か月後の家庭や学校生活においても、生き抜く力の基礎の高まりが認められた。



#### 《課題》

- ▲ 達成感を自己肯定感に高めるための手立てを探る。その指標として「自分自身のよいところを見つめることができる」の変容に着目していく。
- ▲ サイクリング行程では、予定時刻よりも早くポイントに到着することが度々あった。育つ力をより際立たせるため、安全面に配慮しながらも、一層負荷をかける方向で検討したい。
- ▲ 登山、サイクリングの両プログラムは、全力を出し切るプログラムではあったが、子供自身が自ら判断して行動する場面を設定することはできなかった。今後は、キャンプ中に、子供たちが自己選択・自己決定できる場면을意図的に取り入れ、子供たちがより主体的にキャンプにかかわれるようにしたい。

